

環境活動レポート

(活動期間 2015年1月～2015年12月)



株式会社サンキョウ-エンビックス

発行日：2016年4月1日

目 次

1. 組織の概要	1
2. 事業規模	1
3. 体制	2
4. 経営指針（環境方針）	
4-1 企業ドメイン・経営理念	3
4-2 運営方針（品質・環境・安全）	4
5. 過去の環境負荷の実績	5
6. 環境目標と環境活動計画	
6-1 環境目標	7
6-2 環境管理推進計画	8
7. 取組結果	
7-1 環境管理推進結果	9
7-2 取り組み結果及びその評価	10
(1) 事業活動	10
① 事業継続計画（BCP）策定	10
② 事業戦略	10
(2) エネルギー	11
① 太陽光発電による創エネ量	11
② 電力使用量	12
③ ガス使用量	12
④ ガソリン使用量	12
(3) 資源・廃棄物	12
① 紙使用量	12
② 廃棄物	12
③ エコキャップ	13
④ 水使用量	13
(4) 社内企画・イベント	14
① 町内清掃	14
② ビオトープ	15
③ 低炭素社会運動	16
(5) 地域協働	17
① おかやか大野ダルマガエル保全プロジェクト	17
② 環境教育プロジェクト	18
③ 子供環境応援プロジェクト	19
(6) 法令遵守	19
8. 代表者による総括	20
9. 次年度の環境管理推進計画	21

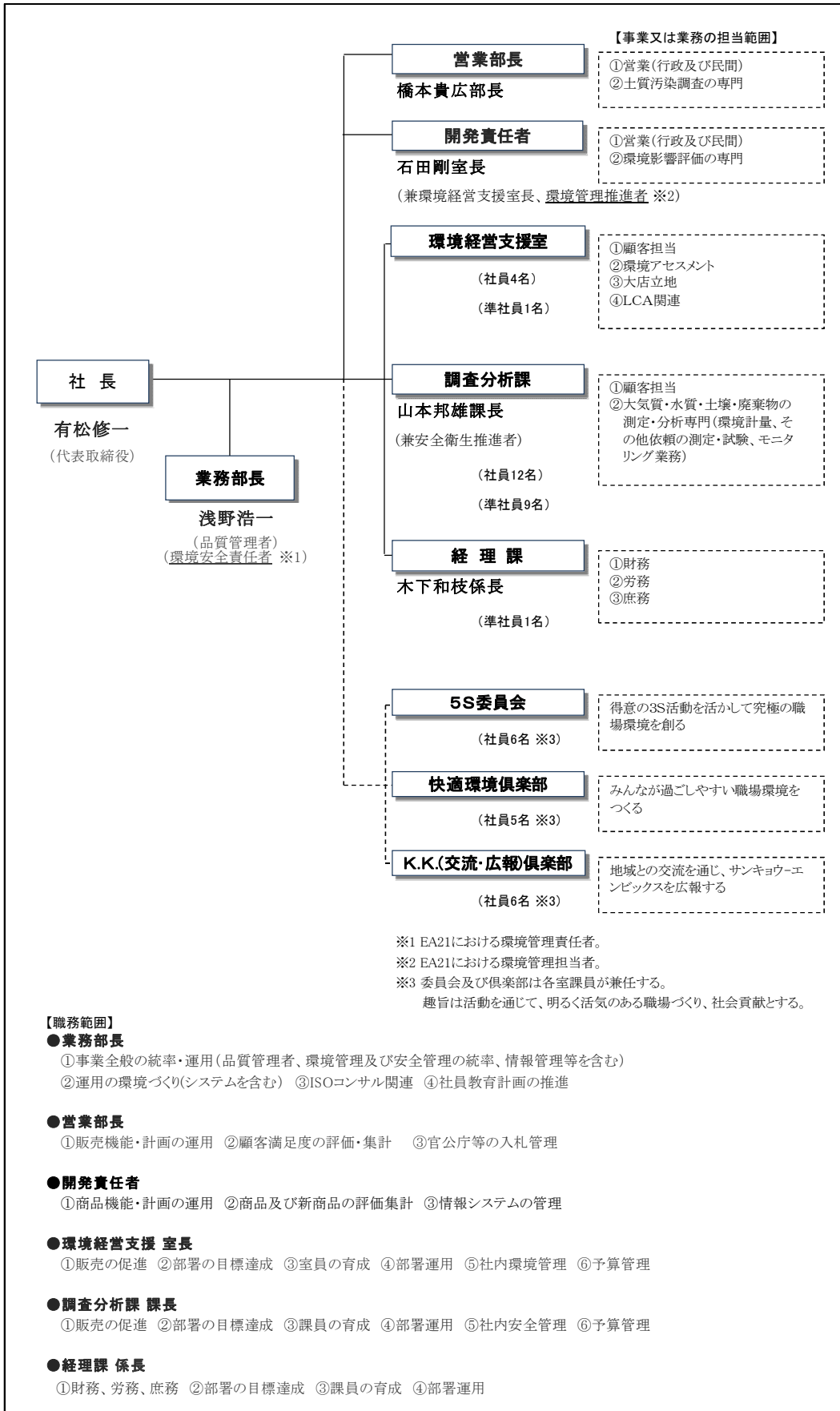
1. 組織の概要

事業所名	株式会社 サンキョウ - エンビックス	
代表者氏名	代表取締役 有松 修一	
法人設立	昭和 47 年 2 月 2 日	
資本金	1,000 万円	
所在地	〒700-0954 岡山県岡山市南区米倉 66 番地 2	
URL	http://www.sankyo-ltd.co.jp/	
環境管理責任者 及び担当者	責任者	環境安全責任者：取締役業務部長 浅野 浩一
	担当者	環境管理推進者：環境経営支援室長 石田 剛
	連絡先	TEL : 086-242-1035 FAX : 086-242-1036 E-mail : sankyo@sankyo-ltd.co.jp
事業内容	環境コンサルティング業務	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境マネジメント構築支援(ISO 認証取得、内部監査員養成、環境教育) ◆環境影響評価(環境アセスメント、大店立地、各種申請・届出サポート) ◆作業環境測定(作業場の測定分析、リスク評価) ◆環境情報開示(環境報告書作成、カーボンフットプリント表示支援、環境ラベル表示支援)
	環境管理支援業務	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境調査分析(大気質、悪臭、水質、土壌、騒音・振動、室内空気) ◆土壌汚染調査(地歴調査、土壌調査分析及び評価) ◆廃棄物分析(一般廃棄物、産業廃棄物、PCB、アスベスト) ◆その他の検査・分析(農薬分析、製品分析、建築物飲料水検査 等) ◆環境測定機器の販売、環境関連設備機器及び消耗品、薬品等の販売
登録/認証/認定	事業登録	<ul style="list-style-type: none"> ◆計量証明事業登録 岡山県 第 6-2 号 (濃度) 岡山県 第 7-4 号 (音圧) 岡山県 第 8-2 号 (振動) ◆作業環境測定機関登録 岡山労働局第 33-4 号 ◆建築物飲料水分析 岡山県 15 水第 13 号 ◆土壌汚染対策法に基づく指定調査機関 環境省 2003-1-220
	システム認証	<ul style="list-style-type: none"> ◆ISO9001:2008 審査登録番号 CI/1198(J) ◆ISO/IEC17025:2005 認定番号 ASNITE0092T ◆エコアクション21 認証登録番号 0000291
	適合認定	◆次世代育成支援認定 くるみん認定通知(平成 24 年 8 月 16 日) (平成 27 年 3 月 27 日)

2. 事業規模

項目	単位	2013 年(1 月～12 月)	2014 年(1 月～12 月)	2015 年(1 月～12 月)
売上高	百万円	247	237	248
従業員数	人	30	30	33
事業所床面積	m ²	1,169.42	1,169.42	1,188.16
事業所敷地面積	m ²	2,596.8	2,596.8	2,596.8
主要な商品	—	上記事業内容に関わる報告書及びデータの提供並びに改善提案		

3. 体制



4. 経営指針（環境方針）

4-1 企業ドメイン・経営理念

企業ドメイン

『よりよい環境を創造する』

私たちは、人と自然と産業とが調和し共生できるよりよい環境を創造し、社会に貢献できる企業を目指します。

経営理念

- 一、私たちは、環境の専門家としての技術や企画提案力を持った環境コンサルタントを目指し、社会に貢献します。
- 一、私たちは、お客様と信頼しあえる関係を築き、相互に成長し発展できる価値を創造します。
- 一、私たちは、人からあてにされる人間集団となり、誇りとやりがいの持てる会社を目指します。

行動指針

- 一、私たちは、必ず約束を守ります。
- 一、私たちは、明るく気持ちのよい応対をします。
- 一、私たちは、快適な環境を積極的に維持します。
- 一、私たちは、新しいことに挑戦します。
- 一、私たちは、学び、協力しあって活動に取り組みます。

経営方針

- 一、顧客ニーズの創出と提案営業を充実させる。
- 一、新たな事業の柱をつくる。
- 一、強い組織をつくる。
- 一、未来を築く人財を育成する。
- 一、明るく楽しく活気ある職場、笑顔ある職場を目指す。
- 一、地域社会の一員として社会に役立つ活動を推進する。

平成 23 年 1 月 1 日
代表取締役 有松 修一

4-2 運用方針（品質・環境・安全）

運用方針

私たちは、経営理念やビジョン及び経営方針を追求していける仕組みを品質面・環境面・安全面の総合的観点から ISO 等の仕組みの意図を利用し、適用される法令・規制を遵守することは基より、顧客の満足並びに社員の満足を追求、目標達成と人材育成を基本としたマネジメントシステムを継続的に運用していきます。

【品質】

- 一、PDCAのサイクルを活かし、結果が見える仕組みとします。
- 一、組織を統制し、結果を出せる仕組みとします。
- 一、社員全員が自らの役割を認識し行動していける仕組みとします。
- 一、社員全員が品質文書に精通し、業務において方針及び手順を守ります。

〈ISO9001&ISO17025 準拠〉

【環境】

- 一、当社の事業活動により、お客様の環境管理を支援します。
- 一、エネルギー及び資源の使用に配慮し、CO2削減及び3Rに努めます。
- 一、地域に貢献できる活動に積極的に参加及び企画、実践します。
- 一、試薬、排水及び廃棄物を、法令及び手順に沿って適正に管理します。

〈エコアクション21 準拠〉

【安全】

法令を遵守し、災害のない安全で快適な環境をつくり、笑顔ある職場をめざす。

〈労働安全衛生法遵守〉

平成26年4月1日
取締役業務部長 浅野浩一

5. 環境負荷の実績

エコアクション 21 の取組みを始めた 2005 年以降の過去 11 年間の実績をみると、電力使用量でピーク時（最高値）の約 48%、ガス使用量で約 65%、ガソリン使用量で約 23%、廃棄物排出量で約 29%、水使用量で約 65%、紙使用量で約 40%と、何れの項目でも環境負荷の低減がなされ、特に改善活動の効果として水、電力、ガスは半減またはそれ以下となる成果を上げています。

なお、中期計画期間の各期における取組の概要は次頁のとおりです。
また、電力、ガス、ガソリン、水、紙の削減効果を経費換算すると、当該年度で年間約 360 万円（最高値比換算）の経費削減となり、売上高営業利益率から売上換算すると、約 8,900 万円の売上に相当（売上高の約 36%相当）することからも、取組みによる成果は大きいと考えます。

表 EA21 認証取得から現在までの環境負荷の実績（11 年間）

中期計画期間 対象年(1~12月)	1期		2期			3期			4期		当該年度の環境負荷低減効果				
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	基準年比	前年比	最高値比	最低値比
二酸化炭素排出量 ($\times 10^3$ kg-CO ₂)	113.8	117.0	112.5	155.4	157.5	119.2	106.2	90.5	113.5	114.4	108.4	-4.5%	-5.2%	-31.2%	19.8%
電力使用量 ($\times 10^3$ kWh)	183.4	203.3	183.6	204.1	174.3	166.6	148.3	109.1	119.3	110.6	105.5	-11.5%	-4.6%	-48.3%	(更新)
LPG使用量 ($\times 10$ kg)	42.8	51.5	47.6	37.1	30.6	23.6	20.9	15.1	16.3	17.9	18.1	11.0%	0.9%	-64.9%	19.7%
ガソリン使用量 ($\times 10^2$ L)	186.0	166.4	179.6	176.7	168.7	154.4	141.0	151.9	141.4	148.7	142.4	0.7%	-4.2%	-23.4%	1.0%
廃棄物排出量 ($\times 10^{-1}$ t)	9.9	10.4	32.0	34.0	31.0	58.6	73.0	57.2	57.4	49.8	51.7	-9.9%	3.8%	-29.2%	3.8%
水使用量 ($\times 10$ m ³)	169.2	181.0	193.4	209.3	100.6	87.7	57.0	60.0	66.2	75.7	73.8	11.5%	-2.5%	-64.7%	29.5%
紙使用量 ($\times 10^{-2}$ t)	113.3	123.0	152.0	87.6	68.0	78.0	71.0	93.0	83.0	79.0	91.0	9.6%	15.2%	-40.1%	33.8%

- 注) 1.二酸化炭素排出量の内、電力の排出係数(単位:kg-CO₂/kWh)について、2005~2007年は地球温暖化対策推進法施行令に定める電力排出係数(0.378)を、2008年は省令で定めるデフォルト値(0.555)を、2009年は中国電力の実排出係数(対象年の前年の係数:2009年0.674)を、2010年~2015年は中国電力の調整後排出係数(各対象年の前年の係数:2010年0.496、2011年0.491、2012年0.502、2013年0.672、2014年0.717、2015年0.709)を用いて算出しています。
- 2.弊社は2005年にEA21を認証し、中期3ヶ年の4期目となっています。■は中期計画の基準年度を、■は認証後の最高値を、■は認証後の最低値を示しています。
- 3.廃棄物について、■の2010年までは一般廃棄物の集計を行っていなかったため、当該期間は実績集計の最大・最小から除外します。
- 4.表中の各年度の経時変化をグラフ化したものを以下に示します。
- なお、経費削減額は電力、LPG、ガソリン、水、紙のピーク時使用量(各年度以前の最高値)からの削減効果分を経費換算した額を、経費削減分の売上換算額は経費削減額分に相当する営業利益を上げるための売上高として、売上高営業利益率から換算した額を示します。(但し、2005~2007年について、電力、LPG、ガソリン、水、紙の各項目単価の集計がないことから、2008年の単価を流用して試算しています。)

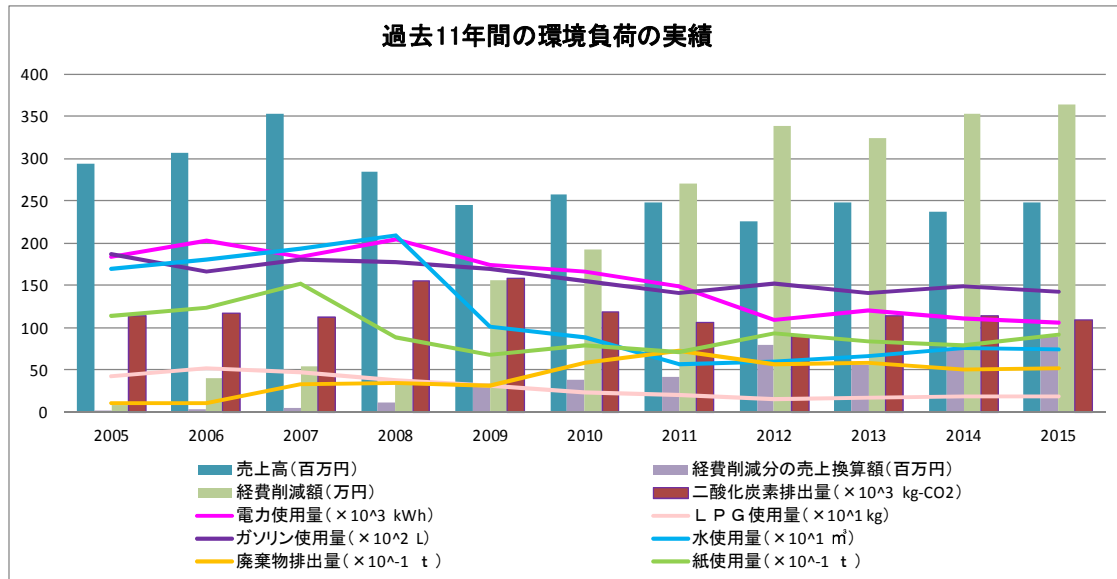


表 中期計画期間毎の主な取組み概要

中期計画期間	環境負荷項目		主な取組み概要	
			分類	主な取組み
1期 (2005～2007)	エネルギー	電気	啓発	空調の温度設定表示
		ガソリン		クールビズの実施
	資源・廃棄物	廃棄物	啓発	アイドリングストップ表示
		水		適正管理
紙	節水の表示			
				裏紙の再利用や両面コピーの推進
2期 (2008～2010)	エネルギー	電気	啓発	照明のエリア消灯表示
				OA機器の待機電力カットの推進
				空調機器の清掃の定期化
		運用	サーバーの統合による稼働電力削減	
		導入	ハイブリットファンを設置	
			高効率反射板の設置(蛍光灯本数の削減)	
	LPG	導入	分析設備のガスから電気への移行(更新)	
	ガソリン	啓発	アイドリングストップ表示	
			エコドライブの推進	
			車両メンテナンスの定期化	
導入	車両買替(更新)			
資源・廃棄物	廃棄物	啓発	3Rの推進	
			節水栓の設置	
	水	導入	雨水タンクの設置	
			蒸留冷却水循環装置の設置	
		純水製造装置の排水再利用		
3期 (2011～2013)	エネルギー	電気	運用	分析機器の稼働時間制御
			導入	空調設備の買替(更新)
		LPG	啓発	ガス使用時の意識付け
	資源・廃棄物	廃棄物	啓発	エコキャップの推進
		水	運用	純水製造装置の稼働効率化
4期 (2014～2016)	エネルギー	電気	導入	太陽光発電の設置
			運用	労働時間の短縮(生産性向上)
	資源・廃棄物	廃棄物	啓発	排出抑制管理
		水	導入	純水製造装置の更新・統合
		紙	運用	電子化

注) 1.各期とも前期までの活動は維持。

中期計画期間の1期(2005～2007年)では、空調の温度設定やアイドリングストップ、裏紙の再利用や両面コピーの啓発等、社員の意識改革・習慣化に重点をおき、2期(2008～2010年)では1期の活動に加え、照明のエリア消灯、高効率反射板(蛍光灯本数の削減)や蒸留冷却水循環装置の導入、純水製造装置の排水再利用等を行うことにより、環境負荷低減への一定効果が得られ、特に水使用量の大幅削減に成功しました。

3期(2011～2013年)では1,2期の活動を維持しつつ、分析機器の稼働時間制御や純水製造装置の稼働効率化、空調設備の更新等を行うことにより、環境負荷低減への一定効果が得られ、特に電力使用量の大幅削減に成功しました。

4期(2014～2016年)では1～3期の活動を維持しつつ、労働時間の短縮(生産性向上)や電子化による紙使用量削減、太陽光発電設備の導入による創エネ等に努めています。

なお、今期は電力使用量で過去最低を更新しています。

6. 環境目標と環境活動計画

6-1 環境目標

項目		2014年	2015年	2016年
事業活動	事業戦略	どんぐりポイントの申請代行1件以上	事業戦略1~6を遂行し各目標を達成	事業戦略1~6の内、4つを統合し、環境サポート事業として展開
	新規取組み	自由研究キットの試作1製品以上	事業継続計画(BCP)の策定	
エネルギー	電気	使用量109,075kWh/年 (過去最低値と同等)	使用量109,075kWh/年 (過去最低値の維持)	使用量107,645kWh/年
			発電量54,529kWh/年 (太陽光発電の導入)	発電量68,966kWh/年
	LPG	原単位設定による削減目標の設定	0.5kg/試料 (前年比▲25%)	0.5kg/試料 (前年比▲25%)
	ガソリン	原単位設定による削減目標の設定	平均燃費11.6km/L (前年比5.4%↑)	平均燃費11.6km/L (前年比4.4%↑)
資源・廃棄物	紙使用量	173,800枚/年 (前年比▲8.3%)	172,000枚/年 (前年比▲4.7%)	161,075枚/年 (前年比▲17.8%)
	廃棄物	適正管理の継続	排出抑制策の設定	排出抑制策の実施 (一廃3t、産廃1.74t)
	エコキャップ	4,000個回収 (子供5名分ワチン相当)	4,000個回収 (子供5名分ワチン相当)	4,000個回収 (子供5名分ワチン相当)
社内企画・イベント	町内清掃	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年6回実施	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年6回実施	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年7回実施
	企画イベント	グリーンカーテンの実施	社内ビオトープの勉強・制作検討	社内にミニビオトープを製作
	低炭素社会運動	クールビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加	クールビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加	クールビズ・ウォームビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加
地域協働	ダルマガエル保全プロジェクト	保全活動や広報活動の継続、活性化	保全活動や広報活動の継続、活性化	保全活動や広報活動の継続、活性化
	環境教育プロジェクト	各種イベントへ参加し、他団体の活動からの学びを得る	実験キットのモニター調査実施	実験キット等を使った環境教育を実施
	子ども環境応援プロジェクト	児童クラブの環境改善活動の実施	他の児童クラブの環境改善活動への展開	
法令遵守	排水管理の法令適合	法改正等への対応	法改正等への対応	

注) 1. 環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量はエネルギー削減で対応、総排水量は2012年の水使用量の維持、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書による適正管理を基本とします。

2. 中期計画は、2014年の会社の状況を見つめ2015年1月に設定しています。よって、3カ年の中期計画と2014年の環境管理推進計画とは整合がとれていない部分又は項目の分類が変更となっている箇所があります。

3. 2016年の目標値は2015年の結果を踏まえ、2016年1月に一部見直しを行っています。

6-2 環境管理推進計画

目標		電気使用量を前年比1.2%(1,536kWh)削減し、年集計最低値(2012年:109,075kWh)を更新する。 企業ドメインに繋がる対外的な交流が3件以上出来ている。(継続含む)		
	到達点	担当者	役割・行動内容	部署長による監視
①	【事業活動】 ・BCPの策定 ・事業戦略の達成	[BCP] 社長 [事業戦略1] 営業部長 [事業戦略2~4] 環境経営支援室 [事業戦略5~6] 調査分析課	【安全・安心関連】 事業継続計画(BCP)を策定し、火災や自然災害などの予期せぬ事態が発生した場合でもすみやかに業務を復旧し、お客様の事業に影響を与えないようにする。 【環境関連】 事業戦略1~6の遂行により、お客様の環境管理を支援する。	部署長会議で進捗確認
②	【エネルギー】 ・発電量:54,529kWh/年 ・節電量:1,536kWh(1.2%↓) ・LPG消費原単位:0.5kg/試料(25%↓) ・平均燃費:11.6km/L(5.4%↑)	[創エネ] 社長 [節電] 経理課 [ガス削減] 調査分析課 [燃費向上] 車両管理者	【電気エネルギー】 太陽光発電の導入により創エネに取り組む(発電量は4~12月分の試算)。 デマンドコントローラーを導入し、デマンド値の目標を設定して節電意識の向上、最大デマンドの抑制を図る。 【化石燃料等】 バーナーの使用方法を改善しLPG消費量の低減を図る。 低燃費車への買替や車両の適正整備、エコドライブにより燃費向上を図る。	月次集計し揭示
③	【資源・廃棄物】 ・紙購入量:172,000枚(8,500枚の4.7%↓) ・エコキャップ回収:4,000個(子ども5名のワクチン相当) ・廃棄物保管の3S	[ペーパーレス] 室長 [エコキャップ] K.K.倶楽部 [産業廃棄物] 廃棄物管理者 3S委員会	【紙資源】 社内文書・FAXのペーパーレス化、Nアップ印刷による紙使用量の削減。	月次集計し揭示
			【エコキャップ】 エコキャップの回収活動を継続し、資源有効利用や途上国支援に寄与。	半期毎に集計し揭示
			【産業廃棄物】 廃棄物保管場所の整理整頓、表示方法を改善し、保管量も含めた年間排出量を把握して、次年度以降の排出抑制を図る資料とする。	3S委員会で改善状況を確認
④	【社内企画・イベント】 ・町内清掃の継続 ・ビオトープのイメージをつくる ・Fun to Shareでの活動報告	[町内清掃] K.K.倶楽部 [ビオトープ] K.K.倶楽部 [低炭素社会運動] K.K.倶楽部	【町内清掃】 地域美化の活動として3~9月で月1回実施(第3金曜日)します。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【ビオトープ】 憩いの場として社内ビオトープの製作を検討します。	
			【低炭素社会運動】 低炭素社会運動としてクールビズ県民運動・スマート通勤おかやま・ダウンライトキャンペーンへ参加し、Fun to Shareで活動を広報します。	
⑤	【地域協働】 ・ダルマガエル保全活動を通じて地域づくりに貢献 ・実験キットの完成と環境教育のデモ実施 ・うのクラブ以外での児童クラブの環境改善に貢献	[ダルマガエル] 環境経営支援室 K.K.倶楽部 [環境教育] 調査分析課 [子ども応援] 社長	【ダルマガエル保全プロジェクト】 プロジェクト協力団体として保全活動を継続し、身近な自然環境に対する地域住民の意識を高めることで、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献する。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【環境教育プロジェクト】 作成した実験キット使い、子供たちを集めモニター調査を行う。	
			【子ども環境応援プロジェクト】 うのクラブで実施したことを冊子にし、他の児童クラブにも展開していく。	
【備考】 1. 当該計画は経営指針書の「経営計画(2014年~2016年)」及び環境に関わる運用方針に沿って設定し、1月から12月までを1年間(1期)とする。 2. 到達点の枠の各項目の()内の値や!は、前年比からの改善比を示す。 3. 環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量はエネルギー削減で対応、総排水量は2012年の水使用量の維持、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書による適正管理を基本とします。				

7. 取組結果

7-1 環境管理推進結果

目 標:	電気使用量を前年比1.2%(1,536kWh)削減し、年集計最低値(2012年:109,075kWh)を更新する。			
	企業ドメインに繋がる対外的な交流が3件以上出来ている。(継続含む)			
達成度:	電気使用量は年集計105,496kWhで前年比4.6%(5,115kWh)の削減。			
	企業ドメインに繋がる対外的な交流は2件(ダルマ保全P、環境教育P)できた。			
	結果・成果報告(到達点)	評価	実施状況(担当者)	監視結果(部署長)
①	【事業活動】 ・BCP案を策定	○	【安全・安心関連】 ・BCP案を作成、備蓄品購入。	BCPは素案策定の段階で、来年以降運用しつつ改善していく。 事業戦略は何れも事業活動を通じての環境貢献(負荷低減等)を行うものであり、その進捗が成果となるが、進捗は各部署報告のとおり、何れも目標値未達となったが、活動の成果はみられた。
	・事業戦略の進捗状況: 戦略1が8割、戦略2が5割、戦略3が9割、戦略4が8割、戦略5が9割、戦略6が9割	△	【環境関連】 ・戦略1(不動産環境コンサル)、戦略2(環境経営支援)、戦略3(大店立地法関係申請サポート)、戦略4(作業環境測定)は△、戦略5(環境計量証明)、戦略6(設備改善サポート)の何れも△	
②	【エネルギー】 ・発電量:56,952kWh [計画54,529kWh/年]	○	【電気エネルギー】 ・太陽光発電による創エネ量(4~12月末累計)56,952kWh	太陽光発電量は年間計画達成。 節電量は年間計画を大幅に達成し、過去最低値となったが、主原因としてはエアコンの使用時間削減(事務所は時短、分析室は夜間切)と屋外照明ライトダウンと見込まれる。 LPGは前年比を上回っており、分析と給湯での使用バランスが不明なため、原単位の見直し(指標の再考)も含め、今後の検討課題とする。 車両燃費は買替時期が年末となり、今期の改善効果はほぼなく、前年比と同等に留まった。
	・節電量:5,115kWh(4.6%↓) [計画1,536kWh(1.2%↓)]	◎	・電気使用量(12月末累計)105,496kWh(前年比4.6%↓) 時短取組み、エアコン温度管理・運転時間削減、屋外照明器具の交換の実施。デマンドコントローラーは未導入。	
	・LPG消費原単位:0.75kg/試料 [計画0.5kg/試料(25%↓)]	×	【化石燃料等】 ・LPG使用量(12月末累計)87.4m ³ (前年比0.9%↑)、試料数は242検体による原単位換算で0.75kg/試料となる。	
	・平均燃費:11.11km/L(0.7%↓) [計画11.6km/L(5.4%↑)]	△	・社会車の買替1台(11月)、エコドライブの啓発ポスター掲示。	
③	【資源・廃棄物】 ・紙購入量:196,000枚(8.6%↑) [計画172,000枚(8,500枚の4.7%↓)]	×	【紙資源】 ・ペーパーレス化(報告書控等)、両面・Nアップ印刷推奨。	ペーパーレス化による紙使用量の削減には取り組んでいるが、シュレッダー導入により裏紙使用が激減したため、購入量の増加要因となった。 エコキャップは取組みを継続し、社員の各家庭からの持込もあり、子ども7.7名のワクチン相当分を回収。 廃棄物保管場所は整理し、表示も更新済。
	・エコキャップ回収量:6,614個 [計画4,000個(子ども5名のワクチン相当)]	○	【エコキャップ】 エコキャップ回収の集計結果は6,614個。	
	・廃棄物保管の3S実施 [計画 廃棄物保管の3S]	○	【産業廃棄物】 ・年間排出量を考慮し、廃棄物保管場所、表示の改善実施。	
④	【社内企画・イベント】 ・町内清掃5回実施[計画 町内清掃の継続]	○	【町内清掃】 ・町内清掃活動を5回実施(3~9月、2回雨天中止)。	町内清掃は6、7月が雨天中止となったが、3~9月で5回実施し、可燃ごみ91.5kg、不燃ごみ2.4kg、ビン1.6kg、缶4.2kgを回収。 ピオトーブはコンテスト形式で応募14作品の中から、最優秀作品1点と子どもの優秀作品1点を決定。来年最優秀作品を基に製作する予定。 低炭素社会運動については、クールビズを5/1~10/31、ウォームビズを11/1~来年3/31、スマート通勤を10/5~10/9、ダウンライトを6/22,7/7の期間で実施。
	・ピオトーブコンテストで最優秀賞1点決定 [計画 ピオトーブのイメージをつくる]	○	【ピオトーブ】 ・社内ピオトーブコンテストを実施し最優秀賞1点決定。	
	・クールビズ、スマート通勤(143.7kg-CO ₂ 削減)、ダウンライト(11.3kWh削減)への参加。 [計画 Fun to Shareでの活動報告]	○	【低炭素社会運動】 ・クールビズ県民運動・スマート通勤おかやま・ダウンライトキャンペーンへ参加。Fun to Shareは年度末報告予定。	
⑤	【地域協働】 ・ダルマガエル保全活動を継続実施 [計画 ダルマガエル保全活動を通じて地域づくりに貢献]	○	【ダルマガエル保全プロジェクト】 プロジェクト協力団体として保全活動を継続。	ダルマガエル保全Pは、田植え、観察会、稲刈り、収穫祭のイベントや、「大野ダルマの大合唱」の広報・販促活動(いちへの出店、大野ふれあいの会、岡山県多様な主体の協働による地域支援事業成果報告会への参加等)を実施。 環境教育Pは、社内で社員家族向けに1回、学童保育「ハニードロップスきび」の出前講座で1回、アスエコサタデーのイベント講師で1回の計3回実施。 子ども環境応援Pは、他のクラブでの測定実施のみとなり、後方支援に留まった。
	・「廃棄物でアロマをつくらう」で環境教育を実施 [計画 実験キットの完成と環境教育のデモ実施]	○	【環境教育プロジェクト】 ・子供たちを集め環境教育を3回実施。	
	・児童クラブの環境改善を実施 [計画 うのクラブ以外での児童クラブの環境改善に貢献]	△	【子ども環境応援プロジェクト】 うのクラブで実施したことを冊子にし、他の児童クラブでの温度測定実施。	
【備考】				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の枠について、◎が目標以上に達成、○が目標達成、△が目標に未達だが成果有、×が成果なしを示す。 ・環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量は前年比5.2%(5,961kg-co₂)削減、総排水量は前年比1.5%(19m³)削減、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書により適正な管理を行いました。 				

7-2 取り組み結果及びその評価

(1) 事業活動

① 事業継続計画（BCP）策定

2015 年は、事業継続計画（BCP）の策定に取り組みました。

事業継続計画（BCP）とは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

今期は 6 月～9 月にかけて震度 6 強の地震を想定被害と設定し、ビジネスプロセス分析やボトルネック調査・資源対策、納入業者・外注先リストを整理し事業継続計画（BCP）の素案を作成し、備蓄品も揃えました。次年度は教育訓練を実施し、使えるマニュアルにしていきます。

② 事業戦略

2015 年は、事業戦略 1～6 を遂行することにより、事業活動を通じてお客様の環境管理支援を行いました。また、ホームページを使って環境に関する課題解決支援の訴求も行いました。



[事業戦略 1 不動産環境コンシェルジュ事業]

土壌汚染調査のノウハウを活かし、中長期に渡る不動産環境調査から必要な措置までを踏まえてお客様の環境管理を支援する事業として、今期は 20 件の支援をさせていただきました。

[事業戦略 2 環境経営支援事業]

中小企業の環境経営を支援する事業として、今期は社員 1 名が一般社団法人に出向し、自身のスキルアップや人脈を広げつつ、出向先組織での活動を通じて環境経営の支援をさせていただきました。

[事業戦略 3 大規模小売店舗立地法関係の申請サポート事業]

大規模小売店舗の新設・変更による周辺生活環境への影響を低減させる事業として、今期は 16 件の支援をさせていただきました。

[事業戦略 4 作業環境測定事業]

職場における労働者の安全と健康を確保するために、作業環境の実態を把握し有害因子（化学物質や粉じんなど）をあるレベル以下にコントロールするための作業環境管理を支援する事業として、今期は 58 社、延べ 947 作業場の測定や設備改善、リスクアセスメントに関する支援をさせていただきました。

[事業戦略 5 環境計量証明事業]

工場や事業所などから排出される有害物質濃度等の環境に係る物質の量や濃度を計測し、第三者に対して証明を行うことにより環境管理を支援する事業として、今期は 253 社の測定分析やお客様からの特殊な相談案件 19 件の支援をさせていただきました。

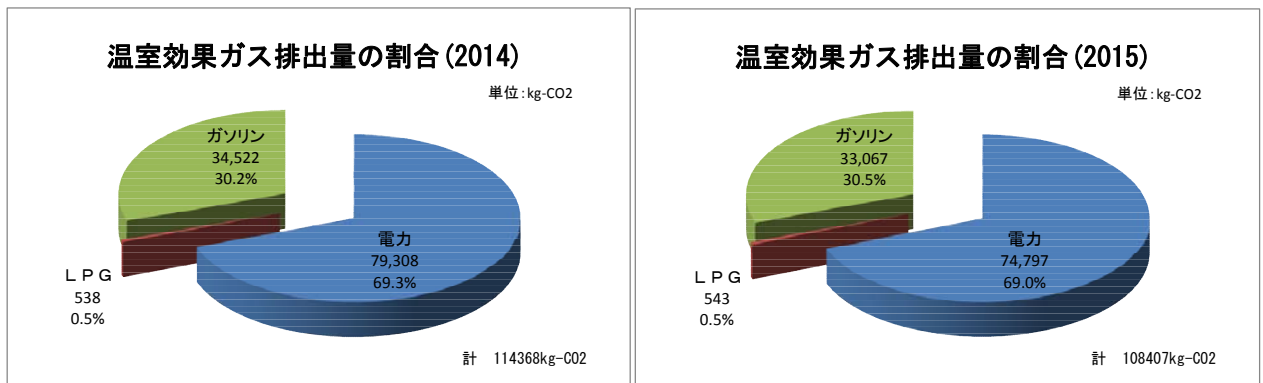
[事業戦略 6 設備改善サポート事業]

お客様の設備改善による環境への負荷低減を支援する事業として、今期は 4 件の支援をさせていただきました。

(2) エネルギー

2015 年は、省エネルギー（二酸化炭素排出量抑制）の取組み結果として、電力使用量は前年比 4.6% (5,115kWh) 削減、ガス使用量は前年比 0.9% (1.9kg) 増加、ガソリン使用量は前年比 4.2% (626.5L) 削減しました。化石燃料の燃焼に伴う二酸化炭素排出量は前年比 5.2% (5,961kg-CO₂) 削減していますが、化石燃料別の二酸化炭素排出量の割合をみると、電力 69.0%、ガソリン 30.5%、LPG 0.5% と大半を電力が占めており、電力の排出係数の変動（2014 年 0.717kg-CO₂/kWh、2015 年 0.709kg-CO₂/kWh）を考慮しなければ、二酸化炭素排出量は前年比 4.5%削減と試算されます。

また、今期は太陽光発電設備の導入（設備容量 60.5kW、年間予測発電量 68,966kWh）を行い、その発電量は年間で 56,952kWh（4 月から本格運用開始）と今期の電力使用量の約 54%に相当します。

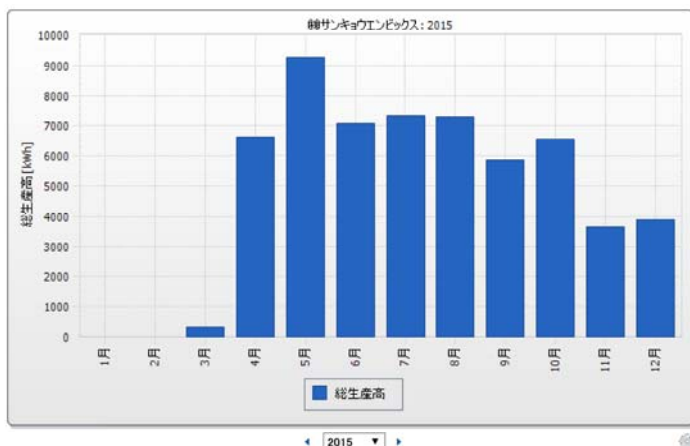


①太陽光発電による創エネ量

2015 年は太陽光発電設備を導入し創エネの取組みを 3 月下旬から開始しました。設備容量は 60.5kW で、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の非住宅用太陽光、10kW 以上に該当する発電設備となることから、調達期間 20 年となります。年間予測発電量は 68,966kWh、年間の二酸化炭素削減量は約 48 t で、当社の電力使用量の約 60%に相当する発電能力となっています。

日本のエネルギー自給率は 6%（エネルギー白書 2014）で、発電電力量の構成比では再生可能エネルギーが 10.7%（水力 8.5%、その他 2.2%、電気事業連合会 2013）となっており、再生可能エネルギーの普及が自給率の向上及び二酸化炭素排出抑制に繋がります。

今期の創エネ量（発電量）は年間で 56,952kWh となっています。



月別発電量の推移



日発電量 (2015. 8. 1)

②電力使用量

2015年は労働時間削減による空調使用時間の減少、エアコン温度管理、屋外照明のライトダウンにより、電力使用量が減少し、過去最低を更新したものと考えます。

なお、デマンドコントローラーは未導入のため、系統ごとの使用量は把握できていません。今後、電力使用量の抑制を図る場合、事務所系、分析室系の系統別使用量を確認し、対策を検討する必要があります。

次年度は社屋改装による増改築に伴い、電力使用量及び最大デマンド値の増加が見込まれることから、空調の温度設定や未使用設備の電源OFF等の節電意識向上がポイントとなります。

③ガス使用量

2015年は前年より1.9kg増加となり、分析試料数の原単位試算では2013年が0.44kg/試料、2014年が0.66kg/試料、2015年が0.75kg/試料と前年比0.9%増となりますが、ガスは給湯にも使用していることから、増加要因は給湯設備の使用状況にあるものと考えられます。

次年度は社屋改装による増改築に伴い、給湯設備の一部を電化することから、給湯設備の使用状況による分析試料数の原単位試算の変動幅は小さくなるものと考えられること、また、二酸化炭素排出量の割合が0.5%と極めて低いことも踏まえ、0.5kg/試料を指標として管理します。

④ガソリン使用量

2015年はエコドライブの啓発ポスターの掲示や11月に社有車を1台更新したが、買替時期が年末となり今期の改善効果はほぼなく、燃費は前年比と同等に留まったが、総走行距離が前年より減少したため前年比4.2%（626.5L）削減となりました。

次年度は社有車1台更新（2016年2月予定）やエコドライブの啓発、燃費の良い車両の利用促進により、平均燃費向上を図ります。

(3)資源・廃棄物

①紙使用量

2015年は前年に引き続き紙使用量の削減として、受信FAX、報告書控えの複写、行政提出物の控え、社内文書のペーパーレス化に取り組みましたが、社内文書の電子化が進まず、またシュレッダー導入により裏紙使用が激減したため、前年比8.6%（15,500枚）の増加となりました。

次年度は社内文書の電子化、裏紙使用の再徹底に取り組みます。

②廃棄物

2015年の廃棄物排出量は、前年比3.7%（0.19t）増加となりました。

前年は一般廃棄物の保管場所の改善を行いました。今期は産業廃棄物の保管状態を見直し、排出抑制に向けての管理体制を整えました。



改善前

改善後

③エコキャップ

2015年はエコキャップ運動に参加して6年目になります。全社員参加でキャップを集め、ECOCAP(NPO 法人エコキャップ推進委員会)に寄付しています。キャップを寄付することで再資源化し得た売却益により病気で苦しむ子供の多い国へワクチンを送ることが出来ます。また、再資源化をすることでCO₂削減もでき、社会貢献できたと考えています。

今期は前年の寄付時期がずれ込んだため、前年分と合わせて2回に分けて寄付を行い、寄付集計結果(10,879個)から前年集計分(4,265個)を差し引いた6,614個(7.7人分のワクチン相当)が今期回収できました。家庭で回収したものを持参してくれる社員も現れ、回収量が増えました。

あなたの行動が世界の子どもと地球の未来を創ります!

- 小さなキャップでも、分ければ資源! リサイクルして価値ある材料に。
- ペットボトルのキャップをみんなで集めよう! キャップは430個で10円になります。
- ポリオワクチンは1人分20円! キャップ860個で一人の子どもの命が救えます。

※飲料メーカー各社の環境配慮活動によりキャップの重量が1個約2.5gから2.32gに軽量化されました。

キャップ回収 → リサイクルメーカーへ売却 → 売却益をワクチン寄附団体へ寄付 → 途上国にワクチンが届きます

エコキャップ (受領書)

株式会社サンエスエフケイ 2015/12/31

寄付金額: 6,772 個 (換算額: 19,724 円)

寄付金額: 2,107 個 (換算額: 21,828 円)

2015/12/31 までの集計結果

寄付金額: 6,772 個 (換算額: 19,724 円)

寄付金額: 2,107 個 (換算額: 21,828 円)

エコキャップの仕組み

寄付結果 (受領書)

④水使用量

2015年の水使用量は、前年比1.5%(19 m³)削減となりました。今期は1・2月の集計で水量が通常より1.5倍と多かったことから、前年に水量増加した要因も含め検証した結果、2台ある純水製造装置の1台に不具合があり部品交換を行いました。一旦は通常水量に戻りましたが、6月に故障停止したことから、純水製造装置の更新及び統合(2台を1台に)を行ったことで、通常水量が月平均で約35%削減され、1・2月の異常水量を含めても前年比で削減できました。

水使用量は、純水製造装置や蒸留冷却水循環装置の排水を器具・容器洗浄に再利用したり、散水用の水の一部雨水を利用するなど、工程や設備の見直しにより、2008年のピーク時に比べ30%前後(27%~36%)まで低減しており、ここ数年は横ばい傾向にあります。

次年度は今期の改善効果により2011年の最低値更新の可能性のあるものの、社屋改装による増改築の影響も含め不確定要素があることから、通常水量の水準を大幅に上回ることがないように維持又は低減に努めます。



改善前(純水製造装置2台)

改善後(純水製造装置1台)

(4) 社内企画・イベント

① 町内清掃

2015年も当社が所在する岡山市南区米倉で、清掃活動を3月から9月にかけて全5回（6、7月は雨天中止）実施しました。また、9月には近隣の岡山県中小企業家同友会会員企業の方々とともに「合同町内清掃」を行い、全5回で延べ74人の参加となりました。2015年に回収したごみや雑草類の総量は99.7kg（2014年は85.2kg）で、その内訳は可燃91.5kg、不燃2.4kg、ビン1.6kg、缶4.2kgでした。この内、合同町内清掃のごみの量は34.8kg（2014年は31.0kg）でした。清掃活動を始めた頃と比べ、実施範囲のごみの量は着実に減ってきており、近隣の企業も朝の清掃を行っている姿が見受けられるようになりました。また、ご近所の方からも「おつれさま」と声を掛けもらうなど、地域に根付いた活動として広がりつつあります。

次年度も活動を継続していき、より地域の美化に貢献できればと考えています。



清掃参加者



清掃活動（5月）



清掃活動（9月）



回収したごみ（9月）

また、今年も児島湖流域清掃大作戦へ参加（11月）しました。

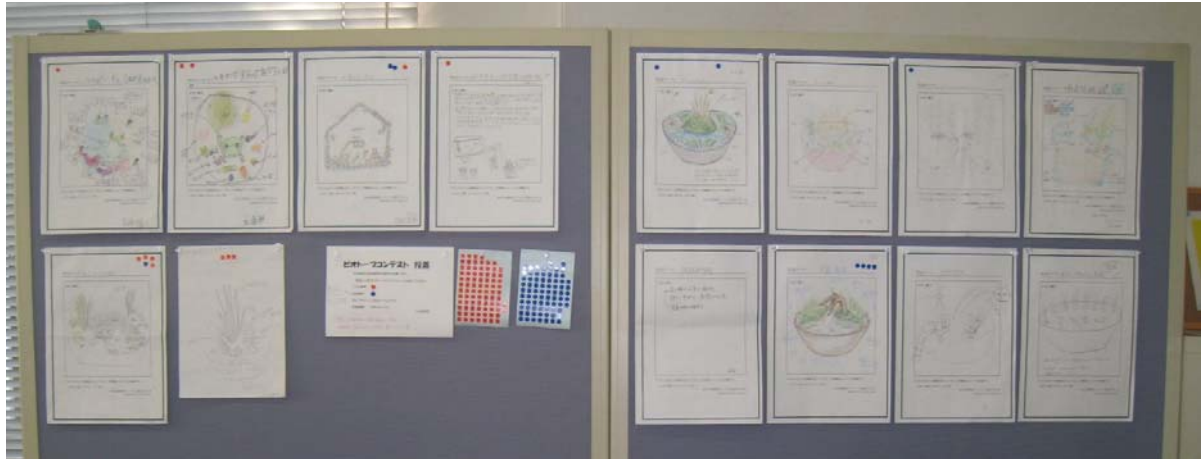


児島湖流域清掃大作戦（9月）

②ビオトープ

2015年は、身近に自然を感じることで生物多様性を考えるきっかけづくりや環境教育等を通じた地域とのコミュニケーションツールとして、社内ビオトープ制作に向けてビオトープについて学び、手始めにミニビオトープを作成するためのアイデアやデザインを募集するためのコンテストを社内で開催しました。社員やその家族も含め14作品の応募があり、年末の社内発表会で一次審査（書類審査）を通過した8作品（大人2作品、子ども6作品）の中から二次審査（プレゼン）を行い、社員投票により最優秀賞が決定しました。

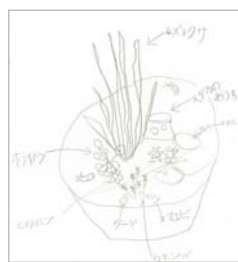
次年度は、最優秀作品のデザインを基に、実際にミニビオトープの制作を行います。



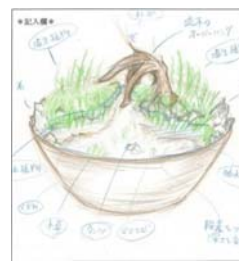
一次審査の状況（応募14作品中、子ども6作品[左]、大人8作品[右]）



①小4（女子）



②小1（男子）



③大人（男性）



④大人（男性）



⑤小3（女子）



⑥小1（男子）



⑦小5（女子）



⑧小4（男子）



最優秀作品(①小4女子)の展示イメージ

二次審査作品と最優秀作品制作後の展示イメージ

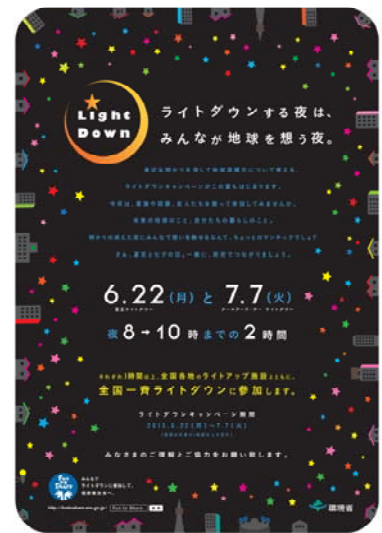
③低炭素社会運動

2015年は、クールビズ・ウォームビズ県民運動やスマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに登録・参加し、社内での啓発活動に取り組みました。

前述した電力使用量の過去最低が更新できた要因の一つとして、クールビズ・ウォームビズ県民運動によるエアコン温度管理の啓発が考えます。

スマート通勤おかやまには社員14人が参加し、期間中の取組み結果は二酸化炭素の削減量が143.7kg-CO₂ (杉10本分)、ガソリン消費の削減量が39.2L (ガソリン代6,468円節約)、消費カロリーが5445.7kcal増加 (ショートケーキ18個分) となり、スマート通勤おかやま2015アワードの部門賞「体にエコで賞」に入選 (第5位) となりました。

ダウンライトキャンペーンには6/22 (夏至) と7/7 (七夕) の両日とも、退社時間を18時として参加し、期間中の取組み結果は11.32kWhの照明電力削減となりました。



クールビズ・ウォームビズ県民運動

スマート通勤おかやま

ダウンライトキャンペーン



スマート通勤おかやまの取組み結果

●体にエコで賞

自転車・徒歩で実施された割合が高い事業所

第1位	高雄工業株式会社 岡山工場	100%
	内山工業株式会社	100%
第3位	DOWA IPクリエイション株式会社	98%
第4位	旭電業株式会社	90%
第5位	株式会社サンキョウ-エンビックス	90%

大賞 スマート通勤おかやま 2015 大賞

医療法人 誠和会・社会医療法人 光生病院

部門賞

●スマート通勤賞

マイカー通勤が削減された方が多い事業所

第1位	岡山工業株式会社	211人
第2位	玉島信用金庫	155人
第3位	旭電業株式会社	127人
第4位	誠和会・誠和会	111人
第5位	社会医療法人 光生病院	77人

●体にエコで賞

自転車・徒歩で実施された割合が高い事業所

第1位	高雄工業株式会社 岡山工場	100%
	内山工業株式会社	100%
第3位	DOWA IPクリエイション株式会社	98%
第4位	旭電業株式会社	90%
第5位	株式会社サンキョウ-エンビックス	90%

●公共交通活性化賞

公共交通で実施された割合が高い事業所

第1位	新光技術開発株式会社	86%
第2位	東亜エンジニアリング株式会社	72%
第3位	株式会社大和建設	71%
第4位	株式会社アズワン株式会社	68%
第5位	株式会社ルック	68%

●スマート通勤賞

今年度実施されたうち参加者が多い事業所

第1位	玉島信用金庫	172人
第2位	株式会社アズワン	80人
第3位	旭電業株式会社	60人
第4位	高雄工業株式会社	19人
第5位	DOWA IPクリエイション株式会社	18人

●スマート新入賞

初参加事業所の中で、参加者が多い事業所

第1位	高雄工業株式会社	206人
第2位	株式会社新数研(エー)エック	35人
第3位	誠和会・誠和会	27人
第4位	株式会社山崎セゾ	25人
第5位	岡山工業株式会社	12人

(5) 地域協働

① おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト

2015 年は、ダルマガエル（絶滅危惧種）の保全活動に取組み始めて 10 年、プロジェクトを立ち上げてから 9 年目となり、プロジェクト協力団体として、保全田んぼ「ダルたん」での田植え、夏夜の観察会、稲刈り、収穫祭のイベントの企画運営（地域内外から延べ 300 名弱の住民参加）、ダルマガエルが息できる環境を整える「ダルたん」の維持管理を行うとともに、昨年ブランド米として販売を開始した特別栽培米「大野ダルマの合唱」の PR 活動として岡山市駅前の西川緑道公園で毎月開催される有機性生活マーケット「いち」への出店や地元イベントの「地域ふれあいの会」への参加等の取組みを行いました。

次年度も、市民、企業、行政、教育・研究機関等が連携してダルマガエルの保全活動を行い、身近な自然環境に対する地域住民の意識を高めることで、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献していきます。



イベントチラシ



活動の様子（イベント・PR）

②環境教育プロジェクト

2015年は、若手社員が中心となって環境に関わる企業としての強みを活かし、子供たちに楽しみながら体験してもらおう環境教育に取組み、「はいきぶつでアロマを作ろう！」と題して、家庭で捨てられる保冷剤を活用したアロマを作る体験学習を社内会議室（社員家族）、学童保育施設（児童とその親）、環境学習センター アスエコ（一般の親子）の3箇所で行いました。また、企画運営の勉強として他団体が行っている環境教育の場や交流会に参加させていただいたり、ホームページにある身近な環境を楽しく学べる環境楽習「サンキョウ学園楽習部」を通じて、各自が学びを得ることができました。

次年度も、楽しみながら体験する環境教育を通じて、日常的に環境問題について考えてもらうきっかけとし、持続可能な社会を担う発想や考え方を養うことで、身近な環境に対する意識を高め、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献していきます。



環境教育の様子（はいきぶつでアロマを作ろう！）



（おかやま環境教育ミーティング）

（川の環境）

（しんきんビジネス交流会）

他団体の活動を通じたとの交流の様子



仲良し3人組の子どもたちが自然界の妖精「はっぱー」「サンサン」「ウォーたん」といっしょに、環境について楽しく学習していくコンテンツです。

詳しくは当社ホームページへ

<http://www.sankyo-ltd.co.jp/study/>

③子ども環境応援プロジェクト

2015年は、前年に中小企業家同友会環境委員会のメンバーとして取り組んだ、学童保育「うのクラブ」における施設環境改善「学童プレハブー6℃作戦」を報告冊子に取りまとめ、この事例を基に他の学童保育における取組支援として、温度測定を行いました。



(6) 法令遵守（環境関連法規への違反、訴訟等の有無）

2015年は、自社の環境管理に関連する利害関係者からのクレームは発生していません。以下の表のとおり法令を遵守しており、環境関連法規の違反や訴訟等は過去10年以上（エコアクション21を認証した2005年以降の集計）ありません。

環境関連法規への遵守総括表

文書：平成27年10月23日現在 確認：業務部長
記録：平成27年12月08日現在 確認：業務部長

該当法令	必要要件等	申請・届出・運用	状況	監視 チェック	
水質汚濁防止法 下水道法	水質汚濁防止法第5条第1項～第3項	特定施設の設置届(工事着手60日前)	H15.10.2 岡山市へ届出済	H26.2.17 変更届提出済	○
	水質汚濁防止法第7条	特定施設の構造等の変更の届出(工事着手60日前)	H26.2.17 岡山市へ届出済	H26.2.17 変更届提出済	○
	水質汚濁防止法第12条の4	有害物質使用特定施設等に係る構造基準等の遵守義務	H26.2.17の届出にて確認済	H26.2.17 変更届提出済	○
	水質汚濁防止法第14条第5項	定期点検の義務	H27より毎年3月に実施予定	H27.6.1～3 定期点検済	○
	下水道法第11条の2	使用開始の届出(あらかじめ)	H15.10.2 岡山市へ届出済	H15.10.2 届出済	○
	下水道法第12条の3	特定施設の設置の届出(工事着手60日前)	H15.10.2 岡山市へ届出済	H15.10.2 届出済	○
	下水道法第12条の4	特定施設の構造等の変更の届出(工事着手60日前)	H26.4.30 岡山市へ届出済	H26.4.30 変更届提出済	○
	下水道法第12条の7	氏名、住所等の変更、特定施設の使用廃止の届出(変更/廃止後30日以内)	H15.12.2 岡山市へ届出済	H15.12.2 変更届提出済	○
	下水道法第12条の8	承継の届出(承継後30日以内)	承継時	現状発生なし	○
	下水道法第12条の9	事故時の措置の届出(発生後速やかに)	事故発生時	現状発生なし	○
	下水道法第13条	立入検査時の対応	立入検査時	H27.10.8 市立入検査	○
	岡山市下水道条例第15条第1項	水質管理責任者の選任届出(選任後速やかに)	H21.6.9 岡山市へ届出済	H21.6.9 変更届提出済	○
	岡山市下水道条例第17条	下水の水質を測定する義務	毎月2回実施	毎月2回実施 (pHは毎日)	○
	岡山市下水道条例第18条	報告徴収への対応	報告徴収時	現状発生なし	○
岡山市下水道条例第21条	改善命令への対応	改善命令時	現状発生なし	○	
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物取締法第6条の2	特定毒物研究者の許可	H21.12.10 許可証発行	H27.10.01 管理者変更	○
	毒物及び劇物取締法第11条	毒物又は劇物の取扱	毒物保管量調査 (1回/月)	営業日の第1 月曜に実施 (1月のみ31日)	○
	毒物及び劇物取締法第12条	毒物又は劇物の表示	所定の表示済	現状維持	○
	毒物及び劇物取締法第15条の2	廃棄	技術上の基準に従い処分	現状維持	○
	毒物及び劇物取締法第16条の2	事故の際の処置	事故発生時	現状発生なし	○
廃棄物処理法	廃棄物処理法第12条 5	産業廃棄物の運搬又は処分を許可業者へ委託	委託契約時に許可証を確認	H27.10.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条 6	産業廃棄物の運搬、処分等の委託の基準	委託契約書 5年保管	H27.10.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条 7	産業廃棄物の運搬又は処分の委託先の処理状況確認(努力義務)	新規契約時1回 (その後は必要に応じて)	H27.10.2 委託先訪問	○
	廃棄物処理法第12条の2 5	特別管理産業廃棄物の運搬又は処分を許可業者へ委託	委託契約時に許可証を確認	H25.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条の2 6	特別管理産業廃棄物の運搬、処分等の委託の基準	委託契約書 5年保管	H25.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条の2 7	特別管理産業廃棄物の運搬又は処分の委託先の処理状況確認(努力義務)	新規契約時1回 (その後は必要に応じて)	H23.7.11 委託先訪問	○
	廃棄物処理法第12条の2 8,9	特別管理産業廃棄物管理責任者設置が必要(岡山市は届出不要)	H23.4.1 選任	H27.11.24 表示の更新	○
	廃棄物処理法第12条の3 1,2,6,8	産業廃棄物管理票の保管	管理票 5年保管	H21～27保管	○
	廃棄物処理法第12条の3 7	産業廃棄物管理票に関する報告書提出	毎年報告	H27.4.20 報告書提出済	○
	廃棄物処理法施行令規則第8条	産業廃棄物保管基準	基準の遵守	H27.11.24 表示の更新	○
	廃棄物処理法施行令規則第8条の13	特別管理産業廃棄物保管基準	基準の遵守	H27.11.24 表示の更新	○

注) 1. エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)については、規制対象となる規模ではないことから該当しません。
2. 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRR法)については、規制対象となる取扱量がないことから該当しません。

8. 代表者による総括（全体評価と見直しの結果）

環境負荷の実績において、過去11年間の削減効果を見ると全ての項目で相当量の削減ができており、金額で見ると年間360万円（最高値比較）を削減したことになります。営業利益率から売上に換算すると8900万円であり、リーマンショック以降、売上を落としながらも利益を出し続けているのは、社員のコスト意識とE A 2 1の仕組みが相俟って効果的な活動ができたからだと思えます。

社内の活動としては、太陽光発電設備の設置や事業継続計画（BCP）の策定、屋内の改装では電球をLED（改装した部分）にするなど計画的に実施することができました。また、継続して取り組んでいる5Sの推進や労働時間の短縮、改善提案活動は当社の環境面にも寄与する効果的な活動になっており、更に活性化させていきたいと思えます。

社会貢献活動として、町内清掃では、近隣の企業が毎年参加してくれるようになり、ある企業は自社の周辺の清掃活動を独自に始めており、私たちの活動が少しずつ広まっていくように思えます。おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクトにおいても特別栽培米「大野ダルマの大合唱」のPRでいろんなイベントに参加できるようになり、お米の販売と共に活動を紹介する場ができ地域の皆さんへの理解や保全活動の活性化に繋がってきていると思えます。子ども環境応援プロジェクトでは、この度低炭素杯2016において、1993団体の中からファイナリスト38団体に選ばれプレゼン発表をした結果、審査委員特別賞を受賞しました。企業が中心となって、地域や環境NPO、行政などの協力を得ながら活動した結果であり、学童プレハブのあり方に一石を投じることができたと思えます。社内の環境教育プロジェクトにおいても「はいきぶつでアロマを作ろう」が人気となり、いろんな所からオファーをいただいています。

当社は、積極的に社会貢献活動に取り組んでいますが、少しずつではありますが地域の皆様に認めていただける活動になってきたように思えます。これらの活動は、社員の創造力やコミュニケーション能力、プレゼン力など仕事面に繋がる能力開発にもなっており、今後は社業にも活かされ更なる会社の発展に繋がっていくことを期待しています。

9. 次年度の環境管理推進計画

2016年の環境管理計画は、社屋改装による増改築を考慮して策定します。

【2016年 環境管理推進計画】

目標		電気使用量を前年原単位比3.8%(4,296kWh)削減し、年集計107,645kWh/年とする。 企業ドメインに繋がる対外的な交流が2件以上出来ている。(継続含む)		
	到達点	担当者	役割・行動内容	部署長による監視
①	【事業活動】 ・環境サポート事業の展開に より10件/年受注	[販売] 営業部長 [商品] 開発責任者	【環境関連】 事業戦略「環境サポート事業」の遂行により、お客様の環境管理を支援する。 お客様の環境に関連する問題・課題を解決するため、問題発生→相談・打合せ→状況把握→対策検討→仮説検証試験→対策実施→評価→維持メンテ、と一貫してサポートできる体制を整える。	部署長会議で進捗確認
②	【エネルギー】 ・発電量:68,966kWh/年 ・使用量:107,645kWh/年 (原単位換算使用量111,941kWh/年に対する節電量は3.8%の4,296kWh/年) ・LPG消費原単位:0.5kg/試料(25%↓) ・平均燃費:11.6km/L(4.4%↑)	[創エネ] 業務部長 [節電] 開発責任者 [ガス削減] 調査分析課 [燃費向上] 車両管理者 スケジュール管理者	【電気エネルギー】 太陽光発電により創エネに取り組む(発電量は1~12月分の試算)。増改築に伴い、過去最低の使用量を記録した昨年実績より、床面積当たりの電気使用量原単位(88.79kWh/m ²)を用いて節電目標を設定し、空調温度設定や未使用設備電源OFF等の節電意識向上を図る。 【化石燃料等】 バーナーの使用方法を改善や電気調理器導入によりLPG消費量の低減を図る。車両買替1台(2月)や車両の適正整備、エコドライブ、燃費の良い車両の利用促進により平均燃費向上を図る。	月次集計し揭示
③	【資源・廃棄物】 ・紙購入量:161,075枚(34,925枚の17.8%↓) ・エコキャップ回収:4,000個(子ども5名のフクテン相当) ・廃棄物排出量:一廃3t、産廃1.74tの計4.74t/年(通常生産業務の範囲)	[ペーパーレス] 開発責任者 [エコキャップ] K.K.倶楽部 [産業廃棄物] 廃棄物管理責任者	【紙資源】 社内文書・FAXのペーパーレス化、Nアップ印刷による紙使用量の削減。	月次集計し揭示
			【エコキャップ】 エコキャップの回収活動を継続し、資源有効利用や途上国支援に寄与。 【廃棄物】 廃棄物の年間排出量抑制として、各分類ごとの目標値を定め管理する。なお、通常生産業務内での目標とし、改築、5S活動、設備更新等での発生量を除く。	半期毎に集計し揭示 半期毎に集計し揭示
④	【社内企画・イベント】 ・町内清掃の継続 ・ミニビोटープの制作 ・Fun to Shareでの活動報告	[町内清掃] K.K.倶楽部 [ビोटープ] K.K.倶楽部 [低炭素社会運動] K.K.倶楽部	【町内清掃】 地域美化の活動として3~9月で月1回実施(第3金曜日)します。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【ビोटープ】 社内コンテストの最優秀賞の絵に基づき、社内にミニビोटープを製作します。	
			【低炭素社会運動】 低炭素社会運動としてクールビズ・ウォームビズ県民運動、スマート通勤おみやま、ダウンライトキャンペーンへ参加し、Fun to Shareで活動を広報します。	
⑤	【地域協働】 ・ダルマガエル保全活動を通じて地域づくりに貢献 ・実験キットを使った環境教育の実施	[ダルマガエル] 環境経営支援室 K.K.倶楽部 [環境教育] 調査分析課	【ダルマガエル保全プロジェクト】 プロジェクト協力団体として保全活動を継続し、身近な自然環境に対する地域住民の意識を高めることで、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献する。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【環境教育プロジェクト】 各種団体との交流で学びながら、作成(改良)した実験キットやイベント等を使い環境教育を実践する。	
【備考】 1. 当該計画は経営指針書の「経営計画(2014年~2016年)」及び環境に関わる運用方針に沿って設定し、1月から12月までを1年間(1期)とする。 2. 到達点の枠の各項目の()内の値や↓は、前年比からの改善比を示す。 3. 環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量はエネルギー削減で対応、総排水量は2012年の水使用量の維持、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書による適正管理を基本とします。				

